



今回の内容：準備整次、休眠期防除へ！

本年は積雪量が例年になく多く、また、気温も低い状況で経過しており、生育は平年並の予想です。今後の気温上昇により早まる可能性もありますので、休眠期防除は準備が整次、進めてください。

発芽予想 平岡：4/3頃？ \*参考：昨年 3/29 平年 4/2

発芽：頂芽の先端が破れ、緑色の芽が2~3確認できた日

果樹試験場エゾノコリンゴ発芽：3/1 \*昨年比+21日

## りんご発芽前の薬剤散布

- 例年並みに石灰硫黄合剤とベフラン液剤の2体系を記載しています。下記の内容を読み、どちらかを選択してください。
- 休眠期散布の目的：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類の初期密度抑制

### 石灰硫黄合剤体系 (発芽前に間に合わない場合は、ベフラン液剤体系で対応下さい)

散布時期：発芽前 (3月下旬~4月上旬)

散布薬剤	水	88ℓ
	スプレーオイル	2ℓ
	石灰硫黄合剤	10ℓ

対象病害虫：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類

10アール当り散布量 300ℓ

#### 【注意事項】

- ① 混用順：水 ⇒ スプレーオイル ⇒ 石灰硫黄合剤 \*よく攪拌する。
- ② 温暖・無風の日を選び、幹や枝を十分洗うように散布する。
- ③ 注意：石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに極力かからないようにする。

散布日：	月	日
散布量		ℓ

### ベフラン液剤体系

散布時期：発芽前~発芽後7日以内 (3月下旬~4月上中旬)

散布薬剤	水	98ℓ
	展着剤	10ml
	スプレーオイル	2ℓ

劇ベフラン液剤 25 100ml (休眠期・6回以内 \*但し、開花期以降は3回まで)

対象病害虫：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類

10アール当り散布量 300ℓ

#### 【注意事項】

- ① 混用順：水 ⇒ 展着剤 ⇒ スプレーオイル ⇒ ベフラン液剤 \*よく攪拌する。
- ② カイガラムシ類対策：アプロードフロアブル 1,000倍を加用する。
- ③ 温暖・無風の日を選び、幹や枝を十分洗うように散布する。

散布日：	月	日
散布量		ℓ

栽培日誌を配布いたします。本年も記帳および提出の徹底をお願いします。

【重要】春の重点作業等は裏面をお読みください。

# 春の重点管理作業（腐らん病・ハダニ類対策、苗木の植え付け方法等）

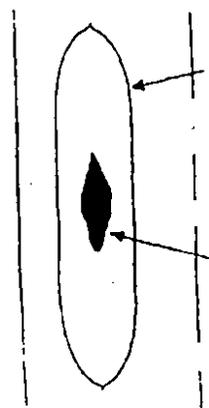


## 1. 腐らん病対策

- ① 各自園地点検を実施し早期発見に努める。（幹・枝部だけでなく、果台部にも見受けられる）
- ② 病患部を見つけ次第切除または削り処理等を行なう。
- ③ 削り取った病患部や、り病枝は焼却する。  
削り取った後、傷口に塗布剤トップジンMペーストを塗る。（腐らん病シートを巻く）

6月に入ると病斑進展が最大となるとともに孢子飛散が始まり、せん定等の傷口からの感染が増大します。つきましては、病斑部を見つけ次第、切り取り・削り取り等の抑制処理を進め腐らん病を一掃してください。

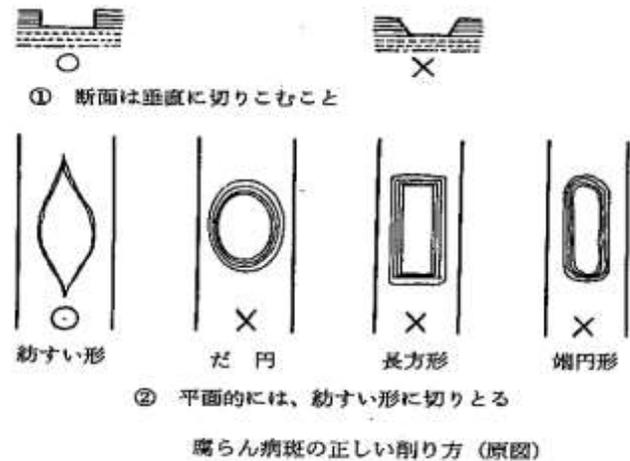
### 腐らん病の削り取り方法



#### 【削り取り部】

木質部の変色している部分は周辺の健全部を含みすべて削り取る。

#### 【病斑部】



腐らん病斑の正しい削り方（原図）

～ 具体的な方法 ～ \*必ずお読みください。

- ① 幹や枝の伸びる方向に口がつかまるように紡すい形に切り取る。
- ② 切り口部は木質部が垂直になるようにする。
- ③ 表面の腐敗部だけでなく形成層の変色及びその周辺の健全部も削り取る。
- ④ 削り取った後は保護のためにトップジンMペーストなど塗布する。
- ⑤ 泥巻きをする場合は、病斑部だけでなく上下に長く巻き、乾かないようにビニール等で密封する。

## 2. 粗皮削り（ハダニ類・輪紋病対策）

リンゴハダニ、カイガラムシ類は粗皮下等に越冬しています。休眠期防除前に粗皮けずりを行い薬剤が直接かかるようにしてください。また、カイガラムシ類の寄生が多い園では、散布前に金ブラシ等で削り落とす作業を行ってください。輪紋病（いぼ皮病）の罹病樹（枝）も多々散見されます。「いぼ皮」を見つけ次第、必ず粗皮けずりを行い、輪紋病の発生源撲滅に努めてください。

## 3. 凍害対策

寒のもどりによって、若木・わい化樹の樹体凍害発生が心配されます。発生防止のため、以下の点にご注意ください。

- ① 稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。\*4月下旬頃まで薬剤散布が樹幹にかかりにくい状況になるため、わい化樹や5年生未満の若木のみ除去を遅らせる。
- ② 排水性の悪い園地では、暗きよや・明きよ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は浅植えに努める。（定植方法は上記参照）
- ③ 風当たりの強い園地では、防風ネット等で緩和に努める。